

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	カトマンズの住民が主体となってバグマティ川の汚染を食い止めることにより、生活環境が改善する。
(2) 事業内容	<p>地元の V. D. C. (Village Development Committee, 日本の行政村にあたる) と連携をはかり、以下のことをおこなった。</p> <p>=====</p> <p><u>主な活動実施日一覧 (生活排水処理施設建設と研修)</u></p> <p>2月21日：事業建設予定地取得の正式手続き開始 (V.D.C への申請)  2月24日：事業建設土地取得日  3月20日：土地の境界線調査(demarcation)と土地測量(land survey) (1回目)  4月10日：土地測量 (2回目)  4月22日：汚染のメカニズム バグマティ川の視察研修 (1回目)  5月20日、22日、23日、25日、26日、27日：デシェ村住宅地図作成研修  6月2日、3日、9日、11日：デシェ村世帯調査研修  6月23日：土地の傾斜測定 (level survey)  7月5日：村人との行動計画表と予算の共有ミーティング</p> <p>=====</p> <p><b>1. 地域単位で生活排水を処理できる施設建設の準備</b>  (分散型排水処理施設 (Decentralized waste water system, DEWATS))</p> <p>1-1 DEWATS 建設予定地の土地測量 (land survey) の実施  (4月10日)</p> <p>1-2 本年度の事業対象エリア A (ゴカルナ V. D. C. デシェ村) 全体の土地の傾斜測定の実施  (6月23日)</p> <p>1-3 建設にかかる行動計画表 (Action plan) の作成と共有  (7月5日)</p> <p>1-4 材料 (レンガ、セメント、鉄筋) の調達</p> <p>■デシェ村の土地が起伏した形状であるため、傾斜測定を行い、177全世帯<sup>1</sup>の家庭污水パイプの長さコストについての確認を行った。また、建設予定地も傾斜地であるため、2回土地測量を行うこととなった。結果、当初の設計に変更はなかった。</p> <p>■砕土業界内での政府に対するストライキによる影響で、材料調達ができない時期があった。ストライキが落ち着いた後は、モンスーンが始まり、建設作業そのものが不可能になった。その影響で材料</p>

<sup>1</sup> 本事業対象地域デシェ村の正確な世帯数は、村の住民による調査で 177 世帯であることが明らかになった。(事業内容 2-2)

調達遅延を来した。しかしながら、建設作業そのものは、3ヶ月で修了するので、予定期間内に事業を修了するには、支障がない。

## 2. 川の汚染の原因が日々の生活習慣にあることに住民が気づき、解決のために行動を起こすことを促すための研修の実施

DEWATS 建設と並行して研修をおこなうことで、施設を維持・管理し、環境保全に向けた行動を起こすのは住民自身であることの理解を促すことが狙いである。地域住民 177 世帯に対し、以下の研修を行った。

2-1 汚染のメカニズム バグマティ川の視察研修 (4月22日)

2-2 デシェ村住宅地図作成及び世帯調査研修

住宅地図研修：5月20日、22日、23日、25日、26日、27日、

世帯調査研修：6月2日、3日、9日、11日

■視察研修では、バグマティ川の上流(①スンドリジャル)から、デシェ村横を流れるバグマティ川(②DEWATS 建設予定地の横)地点、中流の③グジェシュワリ付近、④テク、そして下流の⑤チョパールまでの5つの地点を訪問した。「下流に下れば下るほど川が汚染されている」ということを視覚的に認識するだけではなく、「川が汚れているということはつまり何を意味するのか」ということも含め、溶存酸素計測器などの活用を通じて、科学的数値でも汚染度合いを確認した。住宅が密集する下流に下れば下るほどバグマティ川の汚染度も高くなること(汚染のメカニズム)を研修参加者が理解した。既に「死の川」に値するまで汚染が進行してしまった中流以下(テク・チョパール溪谷付近)も20年前までは魚が泳ぎ、住民が泳げる水質であったことに気がついた。上流に位置するデシェ村の横を流れるバグマティ川が今から15年から20年後に、今の下流のテクやチョパールのような死の川にならないようにしなければという危機感が参加者の中で芽生えた。同様の研修を、施設建設開始までに、あと3回ほど行う予定である。

### ■デシェ村住宅地図作成及び世帯調査研修

各家庭からの下水管が整備されていないデシェ村で DEWATS を建設するためには、どの住居に下水管を設置するのかを決定し(住居によっては、詳しく調べてみると、昼間しか利用していない、あるいは、季節によっては出稼ぎで住人が減るなど、利用状況が様々である)、また DEWATS へのより正確な下水流入量を把握する必要がある。そのために必要となる住宅地図や世帯に関する政府統計がデシェ村に関しては存在しない。(住民間でおおよそ把握されている世帯数は、本事業申請書の通り 200 世帯。) 正確な情報に基づき、基盤のしっかりした DEWATS 建設のために、デシェ村の村人自身の手による住宅地図作成、及び世帯調査の研修を実施した。

<p>(3) 達成された効果</p>	<p>期待される成果（事業目標）（申請書記載事項2）  研修を通じて、住民が川の汚染状況を理解し、汚染の原因が日々の生活習慣にあることに気づく。</p> <p><b>2-1 汚染のメカニズム バグマティ川の視察研修</b>  第1回目：4月22日実施：42名の参加者  第2回目：7月15日 実施：70名  第3回目：7月22日（予定）</p> <p>第1回目の視察研修の後、DEWATSの土地測量などの建設準備と同時並行で、2-2（以下）の住宅地図と世帯調査研修を行った。住宅地図と世帯調査終了後、デシェ村の住民に DEWATS の予算も含めた行動計画表を共有した。外部者による DEWATS 建設事業ではなく、デシェ村の住民による、住民のための DEWATS 建設であるということを、本当の意味で理解し納得してもらうことがこの共有の狙いである。徐々に、「このプロジェクトは本当に自分たちのためのものである」という意識が醸成され始めたころ、第1回目の視察研修参加者に、視察研修の感想を他の住民の前で語ってもらった。住民自らが、視察に参加したいという気になるように仕向けた。7月、8月中に、残りの住民への視察研修は実施される予定である。</p> <p><b>2-2 デシェ村住宅地図作成及び世帯調査研修</b></p> <p>研修対象者：デシェ村各区（ワード）からの4名の女性健康相談員（ヘルスポスト担当者）。これら4名の女性は日頃からボランティアで健康に関する行政からの研修を受けており、健康に関する情報や薬等を村の住民らに配布する役割を担っているため、デシェ村住民から信頼され、認知度も高い女性たちである。住宅地図の作成方法や世帯調査方法の研修実施後、これらの女性たちが村の隅々まで歩き、一軒一軒調査してまわった。その結果、村で初めての住宅地図と現時点で一番詳細な世帯調査結果が得られた<sup>2</sup>。</p> <p>この研修で住宅地図と世帯調査結果が得られた他、副産物として以下の2点が得られた。1) 住宅地図作成のために村を歩き回ったことで、普段気にも留めていなかった道端に散乱したゴミや、蓋のない下水溝（舗装されていない道路にほった溝）に蓄積されたプラスチックゴミなどが可視化され、自分たちの村に如何にゴミが沢山あるかということに気がついた点 2) 世帯調査のために一軒一軒まわり調査を進めるうちに、村の住民たちから何をやっているのかという疑問がこれら女性たちに寄せられ、住民間で情報共有が自然と行われ、本事業の宣伝効果に繋がった点。外部の人間ではなく、村の住民自らが村を歩いてまわり、「自分たちの村のことを知るため</p>
--------------------	--

	<p>に」世帯調査を行ったことで、まず彼女たちの中で当事者意識（オーナーシップ）が芽生え始めた。</p>
(4) 今後の見通し	<p><b>1. DEWATS 建設の今後の見通しについて</b> (2) 事業内容で既述の傾斜地の土地測量に2回の時間を要したこと、及びストライキによる材料到達に若干の遅延が生じたが、2015年2月9日の事業完了日までの完成に支障をきたさないものであるとした見解を、DEWATS 建設の専門家（ENPHO）は示している。そもそも本事業で建設予定の DEWATS の規模であれば、雨季の期間を考慮しても着工後半年以内に建設完了は可能であるということである。</p> <p><b>2. DEWATS 建設と並行して行う研修の今後の見通しについて</b> DEWATS 建設と並行しながら、徐々にしかし確実にデシェ村の住民の間で醸成される当事者意識の現れを促し、①日常的なゴミの処理方法、②施設の保全方法、③水質検査の方法をテーマにした研修は、事業期間内に実施することは可能であるという見通しを持っている。</p>